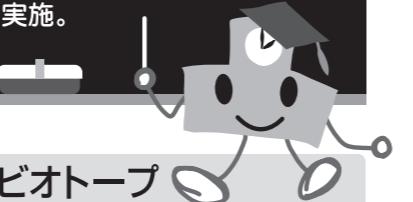


「チョウが舞う校庭」をめざし、自然環境を復元。エゾリスやウグイスも訪れるビオトープ。

「特色ある学校づくり」として環境教育の柱にし全員で取組むことに。生物に接する機会を増やすためビオトープをつくり、生徒が管理。日本一美しいとされるチョウが定着すること目標に植樹を実施。



はじめり 自分たちの手でつくり 自分たちが管理するビオトープ

当校では平成16年度から3年間、札幌市教育委員会の研究委託モデル校として、理科を中心とした環境教育に取組んだ。その目標のひとつが「生物に接する機会を増やすこと」である。

平成18年には「特色ある学校づくり」として、環境教育を当校での教育の柱とすることが決まった。当校ではこの年を「環境元年」とし、様々な形での環境学習活動をスタートさせている。当校での「特色」とは、コース分けなどにより一部の人が取組むのではなく、「全員」で環境学習活動に取組む点である。これは、「環境問題は現在、すべての人が考え、行動することが求められている」という認識からの方針である。

ビオトープづくりと管理は、上記の環境教育活動のひとつであり、生物に触れる機会を増やし、緑化という環境改善に直接関わる取組である。平成6年のスタート時は小規模な植樹だったが、翌年からはより広い面積を確保し、その後、平成20年度～22年度まで毎年春に植樹を行った。

現在のビオトープは正面玄関脇にあり、長さ10メートル、幅5メートルほどである。

ビオトープは池を作るのが一般的であるが、維持管理が大変なこと、進学希望者が多い本学校では時間の面でも負担がかかること、また、「緑化」という点ではより多く木を植えた方がよいという考え方から、当校では池を作らなかった。林と草の生えた空間であれば、ほとんど自分たちの作業だけでビオトープをつくることができる。これが当校のビオトープの特色である。



ビオトープの看板

内容 チョウの産卵する木 チョウの集まる花を植える

当校では平成18年6月から、「チョウの舞う校庭」を目標としたビオトープの整備を進めている。目的は藻岩高校建設により失われた環境を一部でも取り戻すことであり、その象徴として、日本で一番美しいとされるミヤマカラスアゲハが定着することを掲げている。

植樹の中心は、ミヤマカラスアゲハの幼虫が食べる唯一の植物「キハダ」を選んだ。その他にもアゲハの仲間の幼虫が好む木を植えている。

植物と生き物について

植樹する木は、基本的に札幌近郊で栽培された苗をもとにしている。普通の園芸用の苗は産地が分からぬ場合が多く、本州や外国産のものも多い。藻岩高校のある場所に生えていた植物を植えることが、「失われた自然を取り戻す鍵」であると考えている。同じ種類でも遠くの産地の木を植えると、学校周辺の樹木と交配し、本来の地域差が失われ逆効果を与えてしまう。したがって、当校では道産の、産地の近いことが確認されたもののみを植樹している。



ビオトープの生き物

チョウを呼ぶためにはやはり花が有効だが、北海道のほとんどの植物は、1年の一時期にのみ花を咲かせる。そこで、外国産ではあるが、四季咲きの植物で、チョウを呼ぶ効果がありそうなブッズレア、ランタナ、アベリアの3種をポットに植えた。これらの花は札幌でもよく家庭の庭に植えられているが、それ以外の地域に侵入していった例はなく、外来種問題が起こる可能性が低い。

植えた植物は半年もするとずいぶん育ち、ブッズレアなどはたくさんの花を咲かせ続けている。これに、多くのチョウや昆虫がやってきた。平成19年、極端にチョウが少ないといたる年にも多くのチョウが訪れ、そのうちアゲハチョウやキアゲハは定着したようである。また、札幌では絶滅寸前のエゾヒメシロチョウが2回も訪れ、その後、食草のクサフジを植えたことにより毎年数回は見ることができるようになった。

また、チョウ以外の昆虫や鳥もやってきて、ウグイスの声も聞こえた。特にエゾリスが顔をだしたのには驚いた。チョウの棲める環境は、ほかの生物にとってもよい環境のようである。

管理と活動について

活動当初、ビオトープの管理は運営委員会を中心に、ボランティアを募って取組んだ。最初のボランティアには70名もの生徒が応募。その中から更に有志を募り集まつた運営委員約15名が作った計画に従って、全員で植樹、散水、草むしり、施肥、冬圃いなどの作業を行った。ボランティアの活動日には、終了時間になっても「もう少し」と続ける生徒が多く、これを機に植物や生物全体への関心が育まれたと感じている。現在は、ビオトープの運営委員の中心はフィールドサイエンス部が担っており、平成22年度は20名程度で活動した。このビオトープのことを知って当校を選んだという生徒もあり、既に植樹などの環境づくりは終わっているが、熱心な管理作業・観察活動が続いている。



様々な植物

ビオトープ運営委員では、「ビオトープの今を伝える」ことを目指して、目についたチョウや昆虫などの写真を中心とした「ビオトープ通信」を校内2カ所の壁に掲示している。

また、ビオトープの植物や昆虫を授業の教材として活用しており、特に生物関連の進路希望者から喜ばれている。



植物と遊歩道